

## 病院の役割 広報げろ 2008.2

### 病院の役割

下呂市立金山病院も県立下呂温泉病院も建てかえの時期を向かえ病院相互のあり方が云々されています。そこで今回は今後の地域における病院の役割について考えて見ましょう。

病院の使命の第一は入院治療と救急医療への対応と考えます。救急医療は時間との勝負ですが南飛驒の救急医療体制は都市部に比して病院の配置、医師の人数から見てもきわめて不十分です。せめて30分以内に病院へたどり着きたい。高山日赤や、多額の経費を投じて建設された県医療センターは当地域からは遠すぎるのです。ドクターヘリもいざというときに飛ばません。だからこそ金山病院は一次救急を、下呂病院は県立病院として一次、二次ばかりでなく心筋梗塞や脳卒中など最も人員と経費を要する三次的な救急体制にも責任を持たなければなりません。

入院については金山病院は急性期病床約50床程度と医療処置の必要な療養病床約50床程度持つこととなります。急性期病床は金山病院の今までの実績から内科系、外科系、小児科、耳鼻科、歯科口腔外科でこれだけ必要と考えています。療養病床は南飛驒全体で、また下呂病院の後方支援からしても相当数の確保が必要となります。下呂病院は高度医療を行うためにも急性期病床と早期リハビリ病床が必要となります。一般内科、外科ばかりでなく、循環器内科、脳神経外科、整形外科、産婦人科、小児科、泌尿器科、さらには耳鼻科、眼科、皮膚科、歯科口腔外科などでより専門的な治療が行われることは金山病院との病病連携をより効果的に行ううえでも大変重要です。

病院の外来は本来退院患者の経過観察と、紹介患者の対応や専門外来が主体で、かかりつけ医や家庭医的対応は医院や診療所にお願いすべきと考えます。病院勤務医の疲弊は安易な外来受診が大きな要因となっているからです。特殊外来として下呂病院では心療内科（精神神経科）、東洋医学などは地域の要望と利用度に応じて維持が図られるべきと考えます。

手術については下呂病院では各専門科領域における手術が行われますが、金山病院でも消化器癌や乳癌などを含めて一般外科手術や骨折の手術などを行います。これは地域での生活を維持するためには手術は近くの病院で受けるのが良いという考えによりますが、手術が行われなければ外科医が確保できず救急医療が成り立たない、ひいては病院が維持できないためでもあります。

人工透析は患者の地域における生活を直接支援するものであり病院の施設の能力に応じて維持していかなければなりません。

市立病院の大きな役割の中に市民の健康管理があります。これは病院ばかりでなく医院、診療所に行政も含めた体制の確立が必要でその要であるべき市立病院の人的、施設の機能強化が望まれます。

下呂市立金山病院 院長 古田 智彦